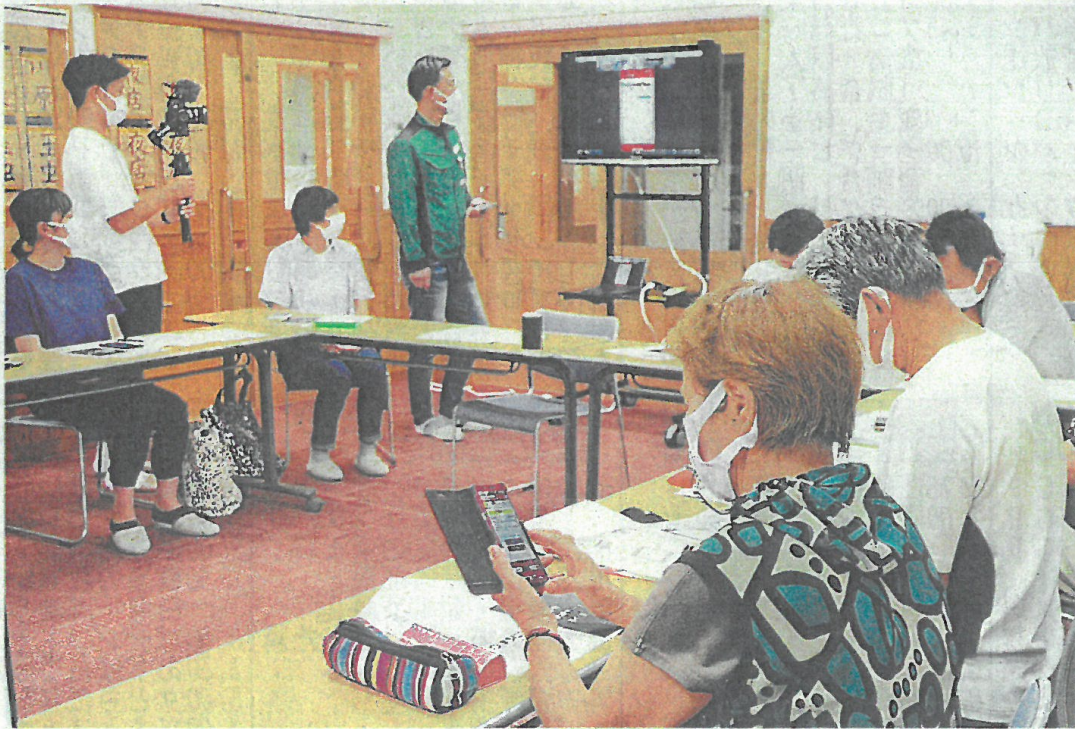


# 地域防災にアプリ活用

## 鳥取・城北地区で自治会が訓練



### 安否確認など操作方法学ぶ



指導を受けながら訓練に取り組む参加者ら

台風や大雨など自然災害が多発するシーズンを前に、鳥取市青葉町3丁目の城北地区公民館で21日、スマートフォンアプリを活用した自治会の防災訓練が行われた。同地区の美咲町内会役員ら11人が参加。地域住民の安否確認などアプリの操作方法を学んだ。

自治会運営専用のアプリ「結ネットのカスタマイズ版「まちにいてい wi th ユイネット」」を活用。デジタル化に関心を寄せていた同地区自治連合会が、鳥取の先行モデルとして昨年から実験的に利用している。

参加者はアプリ機能の

一つ「災害モード」を使い、鳥取地方で震度5の地震が発生した場合を想定して、スマホの操作方法や役員としての対応手順などを訓練した。山岡正博町内会長は「動作を覚えればとても便利に使える。非常時に対応できるよう訓練を重ねたい」と話した。

同アプリ開発元のステーションフォー（北海道）と協力し、「防災」に着目したアプリ活用は今秋から取り組んでいく吉備総合電設（同市田園町3丁目）の山下蒼議代表も訓練に参加。「行政の手の届かない部分を支援できるように町内会との連携を深め、地域に貢献したい」と意気込みを語った。

（荒尾京香）